令和5年度
教育行政執行方針

教育長　小野寺則之

1　はじめに

急激な人口減少、少子高齢化の時代にあって、地域の活力が失われていく厳しい時代を迎えております。しかし、いつの時代も町を元気づけるのは、子どもや若者であります。

福島町の次代を担う子どもたちが、自分の町に誇りと愛着を持ち、「自分の故郷のために頑張りたい」と思う人材を育成していくことが、まちづくりの礎であります。

保育所、幼稚園段階から小中高校生や若者に対し、それぞれの成長段階で地域のことやその課題を知り、解決方法を考え実行し、結果について考察を行い、更なるアイディアを生み出していくことが重要となります。

このプロセスを、私たち大人が伝え、一緒に考え、汗を流すこと、背中を見せることで、子どもたちや若者が成長する、そのような福島町の教育を実践することで、持続可能な町づくりを目指してまいります。

「君と学び、共に育つ」をテーマに、未来を担う子どもたちが、社会で生きていく必要な資質・能力を、確実に備えることのできる教育に誠心誠意取り組んでまいります。

以下、教育委員会として令和5年度に重点的に取り組む施策について申し述べます。

2　福島商業高校の魅力化について

福島商業高校の令和5年度入学者の出願状況は9人となっています。令和4年度から取り組み始めた生徒の全国募集ですが、道外から4名の出願があったものの、福島町や近隣町からの出願が5名に止まったため、合計で9名と道立高校の再編整備基準を回避することが難しい情勢となっております。

「2年連続の10名未満」という再編基準がありますので、令和6年度入学生の確保は、まさに「背水の陣」で臨む必要があり、より一層高校の魅力化に取り組まなければなりません。

令和4年度に整備した「みなみ北海道ふくしま留学」ホームページの充実、新聞への広告掲載、インターネット上での学校説明会、東京都での学校説明会、さらに令和5年度は札幌市でも学校説明会を開催するなど、福島商業高校の情報発信に全力で努めてまいります。

また、10月にオープンキャンパスを開催し、福島商業高校を現に見ていただき、その魅力を伝えていくことが最も重要な位置づけであると考えております。

教育課程の魅力化としては、福島町の自然や食、文化的な価値を発見し、課題を整理し、解決策を提案する地域課題探求学習をより深めてまいります。令和5年度から新たに町内外の第一線で活躍する方々に来町いただき、それぞれの専門分野の講話を聴く機会を多く設け、多様な考えを学ぶ機会の創出を支援してまいります。

ICT教育では、昨年から町費で生徒一人ひとりにノートパソコンの貸与及び、ICT支援員の派遣事業を継続して実施いたします。

また、新規事業として大手IT企業と連携し、より高度なプログラミング学習や、ドローン操縦の国家資格取得など、これからの時代に必要とされるIT人材の育成に努めてまいります。

そして、これまで培ってきた商業教育により、社会経済の仕組み、礼儀・マナー、各種資格を取得し、変化の激しい社会で強く生きる力を身に付けるための支援を継続して行ってまいります。

高校の魅力を紹介する生徒

3　青少年交流センターの利用

就業体験や研修・実習、テレワークやワーケーション、友好市町との児童生徒交流、そして福島商業高校の生徒など、全道・全国から若者を受け入れ、次代を担う人材を育成するため福島町青少年交流センターを整備いたしました。

福島町の自然や産業、歴史文化などの魅力を理解してもらい、交流人口の拡大、移住に繋がることを目的としております。

若者が、楽しく学業や充実した生活を送ることができるよう取り組むとともに、広く全国へ快適な住環境を情報発信してまいります。

令和5年1月に地域おこし協力隊員1名を採用し、施設の管理者（ハウスマスター）として、4月から勤務することになっており、また、食事と清掃業務は経験のある民間業者に委託し、円滑な施設運営に努めてまいります。

4　学校教育

(1)　北海道教育推進計画

北海道教育委員会は、令和5年度において新たな5年間の北海道教育推進計画を、「自立・共生」を基本理念として策定することにしています。

「一人一人の可能性を引き出す」「学びの機会の保障」「地域と歩む教育」の3つを柱としており、福島町においてもこの理念に基づき、各学校の経営方針を策定していくことになります。

福島町教育大綱や各学校の教育目標や目指す児童生徒像の実現に向けて、子どもや地域の実態を踏まえ、学校長を中心として教職員一丸で取り組む推進体制づくりを支援してまいります。

(2)　福島アカデミー

令和5年度は、昭和31年に組織された福島町教育研究所を、「福島アカデミー」に名